

山階宮晃 やまかいはりのあき 歌人。文化十二年一月一日京都生れ、明治二十一年二月十七日没（六二六―九八）。諱初め清深、初稱靜宮、志津宮。法諱濟範。伏見宮邦家の第一子。初め、光格上皇の養子となるも、故ありて養子、親王、位記より上の黄寺に籠居。元治元年居處山科に因み山階宮の賜號を以て一家を正す。孝明天皇の猶子として改め親王宣下、晃の号を賜ひ、元服して常陸太守を任命、國事御用掛に補せらる。その後議定、外國事務總務、治部卿となると幾許もなく免ぜられた。

遺歌集『嘯月』(内題「嘯月集」明治三十四年二月、復刊・明和二年二月山階宮藏版)、治部歌集『竹のきくく』(明治二十一年六月十八日京報・廣田全正續編刊)。